

SDGs スタートアップ研究分科会

アドバンスコース第 4 回情報交換会実施報告

2025 年 1 月 25 日

PMI 日本支部

SDGs スタートアップ研究分科会

アドバンスコース・リーダー 歳弘 浩三

去る 1 月 18 日(土曜)、SDGs スタートアップ研究分科会のアドバンスコース第 4 回情報交換会を開催しましたのでご報告いたします。

アジェンダは次の通りです。

1. 2024 年度 SDGs スタートアップ研究分科会の概要
2. アドバンスコースの運営について
3. アドバンスコース参加団体の情報交換
 - a. 株式会社カルティブ (企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム)
 - b. 舞鶴工業高等専門学校 & 国立高等専門学校機構 (未来の海プロジェクト、高専 GEAR5.0)
 - c. 有限会社ウイルパワー (循環ビジネスの社会的役割の実施)
 - d. ブルージュオブズ株式会社 (SDGs × 広報応援プロジェクト)
4. 最新話題の提供とディスカッション
5. 今後の方向性について

各項目の概要をお伝えします。

1. 2024 年度 SDGs スタートアップ研究分科会の概要

・SDGs スタートアップ研究分科会

PMI 日本支部は、SDGs 達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、2019 年 10 月から内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に「SDGs スタートアップ研究分科会」を設けています。

本年度は、昨年度に引き続き SDGs プロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際に事業として行っている SDGs プロジェクトを支援する「アドバンスコース」の二本立てで実施いたします。

「ベーシックコース」について 10 月 19 日に第 1 回、第 2 回のコースを 12 月 7 日に開催しました。

・学習歴証明デジタルバッジ

今年度からベーシックコース修了者に学習成果の評価を受け合格した受講修了者であることの証明として、ベーシックコース参加者一人ひとりに対してデジタルバッジを授与します。

・SDGs スタートアップセミナー（3/29）に開催の予定です。是非、ご参加ください。

アドバンスコースの開催

本年度のアドバンスコースは、原則として2019年度、2020年度、2021年度、2022年度、2023年度のベーシックコースに参加された団体で実際に実行されているSDGプロジェクトを対象としています。すでにSDGs事業を開始していて、基本的なプロジェクトマネジメントの知識をお持ちの場合は、途中参加もご相談に応じます。

図1にアドバンスコースの位置づけ、スケジュールを示します。

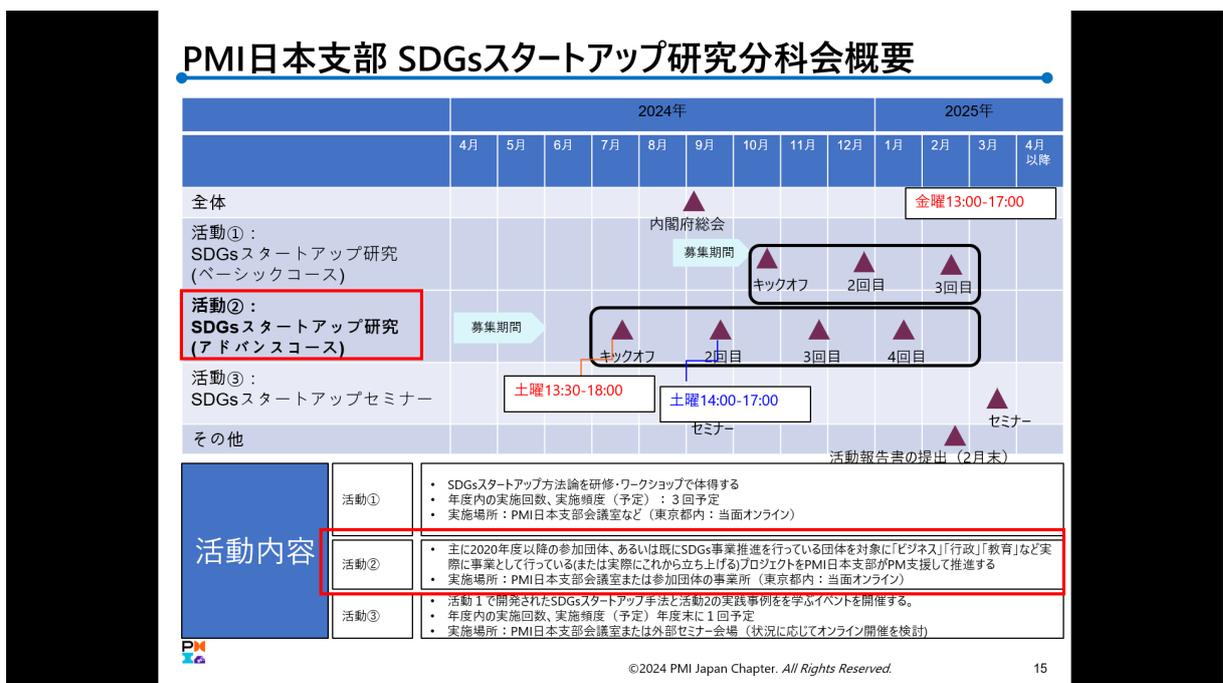


図1 アドバンスコースのスケジュール、活動内容

2 アドバンスコース参加団体の情報交換

アドバンスコース情報交換会は現在アドバンスコースに参加されている6団体の活動状況の概要の共有と共通の課題や検討事項に対して情報を交換し、参加団体およびPMI日本支部アドバンスコース支援メンバーで検討することを目的としています。

今回のアドバンスコース情報交換会は、ZOOM会議によるオンライン開催でした。

株式会社カルティブ、舞鶴工業高等専門学校&国立高等専門学校機構、株式会社インフォテック・サーブ、有限会社ウイルパワー、ブルジョブズ株式会社の5団体にSDGs取組み事例の紹介や近況報告を行っていただきました。

プロジェクト支援団体：

a. **株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム『river』）**

（報告：株式会社カルティブ 企業版ふるさと納税コンサルタント 小坪拓也氏）

・カルティブ社の紹介：

『river(リバー)』という地域課題プラットフォームで、「企業版ふるさと納税の活用を目指す自治体と企業が、制度を活用するためのサービス」を提供しています。「企業と地方を繋ぎ、双方の課題解決への支援をすること」をミッションとし「レジリエントで持続可能な社会ができていること」をビジョンとしています。

・最近の活動報告：

・リーンキャンパスとロジックモデルの最新化をされています。

以下のセミナーの紹介がありました。

【震災支援セミナー⑤】企業だからこそできる震災支援～企業版ふるさと納税の活用～
「内閣府登壇」

https://cms.cpriver.jp/seminar/view?seminar_id=659

「農山漁村」経済・生活環境創生プロジェクト、始動！

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/nousei/241224.html>

農業・農村の課題解決に係る臨時専門アドバイザー情報一覧
に小坪氏が登録されました。

https://www.maff.go.jp/j/nousin/attach/pdf/kanmin_kyousou-8.pdf

「元内閣官房デジ田事務局・現農林水産省 審議官と内閣官房新しい地方経済・生活環境創生本部事務局参事官が語る！！圧倒的可能性を秘めた企業版ふるさと納税活用方策！」

<https://cpriver.jp/2025/01/15218/>

SDGs スタートアップ手法によるリーンキャンパス、ロジックモデル、ベネフィットリストの活用により新規ビジネスの検討はとても有用で役立っています。

コミュニケーション支援団体（4団体）

b. 舞鶴工業高等専門学校&国立高等専門学校機構

（報告：国立高等専門学校機構 内海康雄氏）

- ・これまでやってきたことと、将来やりたいことのまとめを報告。
- ・舞鶴高専の「未来の海プロジェクト」（トヨタ財団助成）
 - 課題1：安全な海へ
定置網漁業用に開発した通信システムの開発、検証を完了し、これを獣害対策、防災無線・海難・鳥獣害（畜産）・山岳遭難・共用システムに活用可能。
 - 課題2：豊かな海へ
スマートブイによる水温、波高データの収集し、気象データ、漁獲量習得データを基に機械学習モデルを使って、漁獲量予測システムの開発を完了した。
 - 課題3：身近な海へ
地域課題の抽出のため地域内外の有識者にヒアリングを重ねニーズの抽出を行った。
- ・防災士養成で、3年間で100名の防災士育成の予定に対して、今年度防災士試験に125名(内85名学生)受験予定。
- ・2025/2/14に京都府中丹広域振興局の事業で、中丹イノベーション推進プログラムの成果発表会の予定。
- ・「スタートアップとは何か」 成書「スタートアップとは何か - 経済活性化への処方箋、加藤雅俊 著」のまとめの紹介が行われました。

c. 株式会社インフォテック・サーブ（代表：橋爪修氏）

（報告：株式会社インフォテック・サーブ 代表取締役 木田氏）

インフォテック・サーブ社のビジネスの紹介、

- ・出版事業（IT技術者育成教材の提供）、研修事業（IT技術研修）、コンサルティング事業
- ・iCD（iコンピテンシディクショナリ）は、タスクとスキルで構成される
- ・ICD3.0タスクディクショナリ（IT領域以外への拡充 56業種に拡大中。）
- ・生き生きとした人材、わくわくする組織作り、SDGsスタートアッププロジェクト
- ・紹介>スマートアグリシンポジウム in 東京（2025年2月5日）
スマート農業技術による可視化

d. 有限会社ウイルパワー(循環ビジネスの社会的役割の実施)

（報告：有限会社ウイルパワー 代表取締役 江川 健次郎氏）

- ・プロジェクトテーマは、循環ビジネスの社会的役割の実施で、
- ・有限会社ウイルパワーはリユースショップの運営と中古品・不要品の輸出事業を行っており、リユースショップ「リユースマン」を岡山県倉敷市と香川県丸亀市で運営、

また、中古品・不要品を開発途上国へ輸出しています。

- ・サーキュラーベース（資源循環基地）という、不用品・中古品を回収して資源循環させる場づくりを行っています。オークションなどにより価値を創出しています。

- ・10/13（日）くらしき環境フェア『不用品チャリティーオークション』官民連携事業で実施
- ・10/18 近隣小学校 校外授業 まち探検隊 小学生の社会科見学を受け入れている。
- ・おかやま SDGs アワード 2024 受賞（2021年に続き、おかやま SDGs アワード 2024 を受賞。）
- ・倉敷市との連携協定で、不用品買取り回収 一括依頼システムを検討中。

- ・AI 活用の方法を知りたい。

チャット GTP での質問の仕方では回答が違うので、箇条書きでない回答を欲しい場合は、より具体的な質問が良い。

AI 活用の良い事例：小坪氏からの提案、

トップ営業なれるくん紹介動画（AI 人材育成サービス）

<https://youtu.be/GzFwd5rhzAw>

e. ブルージュオブズ株式会社（代表：橋本滋氏）

（報告：ブルージュオブズ株式会社 代表：橋本滋氏）

- ・中小建設企業向け採用サポート事業として、企業 SDGs をアピールできる採用 LP について（働く人 視点）、

「採用ランディングページ(LP)作成システムを開発・提供する」ということで、

中小企業の SDGs ブランディングを推進する採用支援ツール「採用 LP」開発中：

☆採用 LP とは求人を行える企業職者向けのインターネットサービス 自社ホームページや SNS にリンクさせて、求人を行える企業職者向けのインターネットサービス

現在の進捗状況は、無料で採用ランディングページが作れるサービス開始に向けて、システム開発準備中。（2025年4月完成予定、）

02 採用LPのイメージ

トップビジュアル
応募者へのキャッチコピー&画像イメージ

メッセージ、募集職種、仕事内容、会社概要の他、「自社のSDGs経営の方針」の記事を入れることができる。

3. 最新話題の提供とディスカッション

- ・人材育成について

<話題提供>

- ・人材育成のための環境整備、人を活かし、活性化させ、自ら考えられ、実行できる能力を含む人材育成のヒントとして、石坂産業株式会社における人材育成の事例を紹介しました。

- ★女性管理職比率 57%
- ★全社女性従業員比率 42%
- ★有給取得率：60%以上
- ★新卒求人倍率：50 倍
- ★リサイクル率驚異の 98%

3.1 石坂産業株式会社の人材育成の事例紹介

石坂産業株式会社の2代目社長 石坂典子氏の書籍「絶体絶命でも世界一愛される会社に変える！」から



参考書籍：

[絶体絶命でも世界一愛される会社に変える！—2代目女性社長の号泣戦記 石坂典子 著](#)

「どうしようもない、やる気のない社員を如何にしてやる気にさせるか？」

「自ら考え、行動できる人材に育成されたかの過程、概要を抜粋して説明します。

2002年、「ダイオキシン問題」から「石坂はここから出て行け。」と言われた中で、
30歳で2代目社長に就任。

「プラントを生かすも殺すも人次第！」

「データ共有で自ら考えられる社員に」

データを蓄積し、事故件数、トラブルの集計時間などの情報を公開すると社員は大きく変わりました。

=>「プロとしての仕事をしっかり見せよう。」という感覚に変わった。

「個を認めると、社員を活かし、社員がいきいきと働ける環境を作ることができる。」

社員の個性や能力を判断し、社員を活かすするには、彼らのことを知ることが大切。

そのためには、まず話を聞くこと。

「この人はこういう感性を持っているし、こういくことができるから、あの仕事を任せよう」と考え、任せる。

「自分たちでやるべきことを考えるようになり、行動計画を作れるようになった。」

プライドを持って仕事に取り組み、徐々に創意工夫ができるようになってきた。

4. 今後の方向性について 【今後の形態】

アドバンスコースの対象がプロジェクト支援から団体とのコミュニケーションに形態が変化してきており、今後の支援方法、会議体の形の見直しが必要になってきています。

①「会の形態と名称について」

コミュニケーションを目的にした別の形もあるのではないかと？

【名称】の変更の検討（案）

例：SDGs 実践交流会、SDGs 経験交流会、SDGs 実践ネットワーク・・・など

コミュニケーション中心の会は欲しいとの意見が多かった。

名称に関しては、：地方創生 2.0 スタートアップ分科会など SDGs 以外の

ネーミング案も出てきた。PMI 日本支部の会であれば、プロジェクトマネジメントに関するテーマ、話題も入れる方が良いとの意見もあった。

②【ご意向確認】

皆様は来年度、新形態の場に参加されますか？

- ・概ね皆さん、次年度も参加予定の方向
- ・サロンのような会もあるのかも。
- ・頻度は4半期に1回でも良いか。

各チーム個別のサポートが必要な場合は、各PMと個別に相談していただく。

以上



アドバンスコース第4回情報交換会 参加者

本件についてご関心、ご要望がありましたら下記にお問合せください。
PMI 日本支部 SDGs 担当(sdgs@pmi-japan.net)